



泊社集注解
義



田舎草子

卷之二

泊船集巻之二

芭蕉菴拾遺稿

洛陽 風園拙次
濃大垣 軽花坊註解



書の紙

え日に は し て は 田舎の 口の 徳アリテ 豊作 ニテ アレ カ

小川

梅の 田の 津の 知の 草の 子の 巻の 二の

二日 (カキノフニ) *Quercus parvifolia* Benth

Quercus parvifolia Benth

Quercus parvifolia Benth

Quercus parvifolia Benth

Quercus parvifolia Benth

二日 (カキノフニ) *Quercus parvifolia* Benth

大津 陸の南のけしきは何佛

遊女を畫ぶ宛を牛よのほを佛といはれり

大津 陸の南のけしきは何佛

大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛
大津 陸の南のけしきは何佛

大津 陸の南のけしきは何佛

花を飾りし人 人情の飾りなき 花

乃 去 ナレニ

是の撰集抄に於の内よりつりよめしものをかき
つと物しりしるく公主人しりふるんをよのほて
しりつりつりつりあまよそよける物をも
せふつりつりつりあまよそよける物をも
を今 bodies のあまよそよける物をも
つりつりつりつりあまよそよける物をも
しりつりつりつりあまよそよける物をも

まむんや 抄ナレハ 抄ナレハ

セ子ハナラス
ガナレト 糸あふアリテ巻ニハ事
満メリト思ヘリ

ふるしりしるく公主人しりふるんをよのほて
しりつりつりつりあまよそよける物をも
せふつりつりつりあまよそよける物をも
を今 bodies のあまよそよける物をも
つりつりつりつりあまよそよける物をも
しりつりつりつりあまよそよける物をも

て若人の公のりつたまらふるんをよのほて
しりつりつりつりあまよそよける物をも
せふつりつりつりあまよそよける物をも
を今 bodies のあまよそよける物をも
つりつりつりつりあまよそよける物をも
しりつりつりつりあまよそよける物をも

隠ナレハ 人む見ナレハ ぬまふナレハ 後のらりの撰ナレハ
繪ニ似ヌリ

後のまふのるりあまよそよける物をも
せふつりつりつりあまよそよける物をも
を今 bodies のあまよそよける物をも
つりつりつりつりあまよそよける物をも
しりつりつりつりあまよそよける物をも

まむんや 善心モナク
ナレハ 撰ナレハ 于其エニ巻ニ
重ヌレトハ 名せらふ撰ナレハ のるナレハ
まむん白人之所以異於禽獸者幾希庶民去之

けろくをひく

風まらふ

まらふらうくつらく九日 ナラデハ日モメ、
子トソレホト の野山キケレ

りね

九日...のまらるる

枅

細代民知のりあやう

枅の本... ノヤウニ見ユレト
ヤハリ枅本 や枅の カマシ

尾...のま...
...のま...
...のま...
...のま...
...のま...

山... ノヤウナラセ
メキシユト ... サレト
早キ 枅の

花ナルソ

...の...
...

ふら館の後ろに梅ありて
いづらふら女子モトリアルモ
又此本上同クしり麻梅の
古津宮の沖隈をまゝササ梅ありて
あそびる館といふ社のまゝササ梅あり
梅もささ梅ありて梅ありて

こゝろやくれけし春メキみも見ユし梅の

こゝろやくれけし春メキみも見ユし梅の
こゝろやくれけし春メキみも見ユし梅の
こゝろやくれけし春メキみも見ユし梅の
こゝろやくれけし春メキみも見ユし梅の
こゝろやくれけし春メキみも見ユし梅の

あ

まもやきし腕ナルトた腕ナルトて腕ナルトま腕ナルト月腕ナルト

梅ノ香ニ白ヘルト

梅今やはま色のいいぬぬまま
かかふふ月月はは梅梅ののいいぬぬまま
まま何何時時かかはは梅梅ののいいぬぬまま
をを地地ににいいぬぬまま

旅見可モナシト思物シカ思ノ外古古早早ああまま梅梅

古古ひひらら本本ののいいぬぬまま

あの中らう〜物なるあはれゆ〜
あはれゆ〜物なるあはれゆ〜
あはれゆ〜物なるあはれゆ〜

か〜
ルニソコニモ
ハタニモ なるあはれゆ〜

物〜

あはれゆ〜物なるあはれゆ〜
あはれゆ〜物なるあはれゆ〜
あはれゆ〜物なるあはれゆ〜

あはれゆ〜
ノエナラ
又時 ふ乃つ〜日のあはれゆ〜
トイフハエ
カクキ

あはれゆ〜

あはれゆ〜物なるあはれゆ〜
あはれゆ〜物なるあはれゆ〜
あはれゆ〜物なるあはれゆ〜

いせ〜
なるあはれゆ〜

あはれゆ〜
風雅
北のあはれゆ〜

あはれゆ〜物なるあはれゆ〜
あはれゆ〜物なるあはれゆ〜
あはれゆ〜物なるあはれゆ〜

ハチマキの梅の枝の節

（上）ハチマキの梅の枝の節

梅の枝の節はハチマキの梅の枝の節
ハチマキの梅の枝の節はハチマキの梅の枝の節
ハチマキの梅の枝の節はハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節
ハチマキの梅の枝の節
ハチマキの梅の枝の節
ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節
ハチマキの梅の枝の節
ハチマキの梅の枝の節

ハチマキの梅の枝の節

のたまふじきの一ひら〜

こころの〜 カメ

〜 カメ

〜 カメ

〜 カメ

〜 カメ

〜 カメ

拵物 ナカモノ

〜 カメ

イカニテ〜 カメ

天女の〜 カメ

拵物〜 カメ

おしり〜 カメ

お島

〜 カメ

〜 カメ

拵物〜 カメ

せん事一足来本ちかむし一節にむいせし
心月は十かむし一解のむいせし
くまむし一かむし一のむいせし
くまむし一かむし一のむいせし
くまむし一かむし一のむいせし
くまむし一かむし一のむいせし

さかむし一かむし一のむいせし
さかむし一かむし一のむいせし

さかむし一かむし一のむいせし

むいせし一かむし一のむいせし

さかむし一かむし一のむいせし

むいせし一かむし一のむいせし

さかむし一かむし一のむいせし
さかむし一かむし一のむいせし
さかむし一かむし一のむいせし
さかむし一かむし一のむいせし
さかむし一かむし一のむいせし

法

おき

素テ

おき

形ナリ

おき

おき *the following is the text of the book*
おき *(the text continues)*

抑

おき

the following text continues in cursive script

おき

和ラカタ
枝

おき

the following text continues in cursive script

おき

the following text continues in cursive script

おき

おき

the following text continues in cursive script

心ふりて紙幣をよみぬ カキ音カハリタヒ
けりうぬ 高々揚テモ

さるかにしるさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに

極まゝ 雑小文庫

おきかへりよき体なる 高々 雑

こゝに於てはさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
解成まゝさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
あつんとすまゝさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
此のさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに

紙子

さるかに

お母れさるかにさるかに 紙子の夢

さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
のさるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに
さるかにさるかにさるかにさるかにさるかにさるかに

紙子 鳥 姿 ヤナシキ あま

ふ〜ま〜

遊

ふ〜ま〜
テ〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜
〜

陽

かけろ〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

枯〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

伊〜
〜
〜
〜

夫〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜
〜

あるれうけうのしんまふかふん

不性やわらふをひきこし。不度コニテ 居ラ 去の

まゐるのつれははく 淋落

うらうら ぶらさし

とほるれあ下のるる下り物

るまじりやうらうらあひまのなる

風情のしやうり

紙ヌレヤスキガのヨシヤ めいじんとるる

いふ 設テハ詮ナシ

もいるるまをうらうらあひまのなる

まゐるや後のま
はしるる指のま
世のまのま
まのまのま
まのまのま
まのまのま

ひりくまをうらうらあひまのなる
の指

花

さうふ都津陽陽少欲サマミタノ 花

句凡あるハ性粗倍ナル入ニテ此類アリ 故ニ人ノ議アリムナリ此句信章ノ

愛前漢吞東方朔傳云 銷愛者莫若酒 知酒聖

貧晋石曰貧者貧字元道好字多聞 以貧者自注著錢仲端 見錢神

花カダテ 面白キ ヤガテ 字 ソレニヒトシ 花 ウス

合書

精ニイメラス
不負世ニシラスコトゾ

かこりては正の木のたみり

世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり
世の事ありては正の木のたみり

大和國の尾持

よあのかげはしるし

忠度の信はしるし
忠度の信はしるし
忠度の信はしるし
忠度の信はしるし
忠度の信はしるし
忠度の信はしるし
忠度の信はしるし
忠度の信はしるし
忠度の信はしるし
忠度の信はしるし

後くちん

本のちりけは

本のちりけは
本のちりけは
本のちりけは
本のちりけは
本のちりけは
本のちりけは
本のちりけは
本のちりけは
本のちりけは
本のちりけは

ゆれお花の
ゆれお花の
ゆれお花の
ゆれお花の
ゆれお花の
ゆれお花の
ゆれお花の
ゆれお花の
ゆれお花の
ゆれお花の

法州 テラノ

廿日と申す武の寄居候の御事候
と申す御事候御事候御事候
と申す御事候御事候御事候

二月廿日 御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候

かろし

西の御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候

御事候御事候御事候御事候
二月の御事候御事候御事候

御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候

御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候

御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候

御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候
御事候御事候御事候御事候

古今世のまなひぬの千さくも
すういよあめはなりしおきく
つらう

倭別

けくろろ拵せよつ花タシム身ハ
驕リハナラヌ 五志

一 貝ミテナ
足ヒリ

新所なるシカさうのあり
あつたをきりしれは
事のみよるとしう
凡世の魂は

花の感ナノキ 花の感ナノキ 花の感ナノキ

花の感ナノキ 花の感ナノキ 花の感ナノキ
花の感ナノキ 花の感ナノキ 花の感ナノキ
花の感ナノキ 花の感ナノキ 花の感ナノキ

花の感ナノキ 花の感ナノキ 花の感ナノキ

あつたをきりしれは
事のみよるとしう
凡世の魂は

ちりくたや 何故ソソクカ なるも いかに ちりくた 聞へ

此音ニハ唐 モ動ソト 云コトナレハ

竹の葉と大鼓の生るる 一 陰の

影らさう

琴ノ詩ニ棟動梁上塵 と ころ 本 あまの 無 ころり
う い ちる あ しま あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ
葉の あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ
あ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ
の あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ

知人 家ニ居 なる ナアラ の あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ

手 メナヒク 作カラ

其 ア ころ ア ころ ア ころ ア ころ ア ころ ア ころ
あ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ
あ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ
あ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ

け あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ
う あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ
は あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ

ち あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ あ ころ

七ノハト数字の拍子にんひるる向ふく
一化るるい字様をまにに

字あすらるる

花も宿ハナモヨド けしケシ 花カラ 終りハジマリ や廿日

けしケシ 花ハナ 宿ヨド

志えくくと思ひし何ゆきあり終り
還る歌いんも人よまの位物あり
とりぬきを金ちり接写るる

花の宿のまじりる言の元本れ

山中の梅の生

わさよののり
くろくあすは梅
のまあるうとる
いふあまあ
とくまを
とくや

花の生

あまのいひのま
かせうらうら
いふえん

花の生

あまのいひのま
かせうらうら
いふえん

とくまはらるるまじりる梅の生

あすのいひのまはらるる梅の生

のまのいひのまはらるる梅の生

てはひのいひのまはらるる梅の生

花の生

花の生

あすのいひのまはらるる梅の生
そらあのみはらるる梅の生
あすのいひのまはらるる梅の生

花の生

るをみるく心ゆけくくふいふはむとせ

酒をのききの記

酒のよきと花をいへくは乃は

あふむく酒のほいあふむく酒のほい
ふくむあふむく酒のほいあふむく酒のほい
ふくむあふむく酒のほいあふむく酒のほい
あふむく酒のほいあふむく酒のほい

酒のよきと花をいへくは乃は
酒のよきと花をいへくは乃は

花のよきと酒をいへくは乃は

花のよきと酒をいへくは乃は

酒のよきと花をいへくは乃は

酒のよきと

酒のよきと花をいへくは乃は

酒のよきと花をいへくは乃は

酒のよきと花をいへくは乃は

酒のよきと花をいへくは乃は
酒のよきと花をいへくは乃は
酒のよきと花をいへくは乃は
酒のよきと花をいへくは乃は

ほのめく人の跡

ほのめく人 アラハハシメシ あくそほのめく人 カサニシシレモ
係もまじりさる時責状もまじりくせむ
まじりさる時責状もまじりくせむ
まじりさる時責状もまじりくせむ

くせ人の果

くせ人 知ル の果 知ル
くせ人の果 知ル
くせ人の果 知ル
くせ人の果 知ル

山吹

山吹 ナギナ の白あけ ナギナ

山吹 ナギナ の白あけ ナギナ
山吹 ナギナ の白あけ ナギナ
山吹 ナギナ の白あけ ナギナ

ほのめく ナギナ の果 ナギナ

ほのめく ナギナ の果 ナギナ
ほのめく ナギナ の果 ナギナ
ほのめく ナギナ の果 ナギナ

涅槃

流るる流るる流るる流るる
流るる流るる流るる流るる

いせう

流るる流るる流るる流るる
流るる流るる流るる流るる

いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう

いせう

流るる流るる流るる流るる
流るる流るる流るる流るる

いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう

いせう

流るる流るる流るる流るる
流るる流るる流るる流るる

いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう
いせう

とあるはれいあしちん位をわしとあはれい
はしとあしちん位をわしとあはれい
知しとあしちん位

二月廿五日
入野門にさかるとん

幼年一物のころりし 江戸政の終

幼年あまの物といひ髪のおあまの髪
はしとあしちん位のころりし
あしちん

若の控り

山寺れうあしちん位はしちん位 解り

若解はしちん位のころりし
あしちん

大おのりゆのころりしあまの髪とあ
しちん位のころりしあまの髪
のころりしあまの髪

若の川ころりしあまの髪
あまの髪ころりしあまの髪
あまの髪ころりしあまの髪

昔は清く

凍るぬく年トシには清く次ホドは清く哉
西人の名をいふは清くは清くは清くは清く
清く清く清く清く清く清く清く清く清く
清く清く清く清く清く清く清く清く清く
清く清く清く清く清く清く清く清く清く

重宝

清く清く清く清く清く清く清く清く清く
清く清く清く清く清く清く清く清く清く
清く清く清く清く清く清く清く清く清く
清く清く清く清く清く清く清く清く清く

るも唐の地とてあつた人
そふ角の瓦をいふ

あのみし地と振テ持テ居ルや物の候

年をさすりしるふ公をさすりしるふ

清川のるる菴をさすりしるふ

物の名も伝うりしるふ

今より後人の名をいふは清くは清くは清く
清く清く清く清く清く清く清く清く清く
清く清く清く清く清く清く清く清く清く

人の心はさうさう樹木さうに呼吸の果
寂ちる風さうさう

影さうさうあまのさうさう胡蝶

借少人さうさうたはるさうさう
たさうさうさうさうさうさう
さうさう

娘子の数人

白るるや増ミ思ふ目さうさう情い法
のタリ網ナレの
抄さうさうさうさうさうさう

て食さうさうさうさうさうさう
目さうさうさうさうさうさう
おさうさうさうさうさうさう
やうさうさう

さうさうさうさう

二候さうさう物さうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさう

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

おしりひねり
おしりひねり

惟をしほしあまるといひやうらむる
御書情ゆり

新

藤タチテ
可クワカ
ルレハ

名信の名の月をあらそ

クニカタレハヤ
ウナ

竹内御書細乃たり

杜律・悼別ニハ花濺涙感時鳥動心トあり

ほろりたる道しほす可別を秋情ニくもせ

あつるもは涙とほろりたる名ありわ

お工の御書のしほりたる人

